

「審美的歯周形成外科と そのメンテナンスを極める」(Web 開催)

最近話題の審美的歯周形成外科とは、審美的または予防的な歯肉の形成外科で、以前は歯肉歯槽粘膜形成術 (MGS:mucogingival surgery) と言われていました。浅い口腔前庭や付着異常の小帯および付着歯肉の不足などはプラークコントロールの妨げになり歯肉炎を発症しやすいことから、それらを解決する方法として MGS が生まれ、現在では歯周形成外科という用語に置き換わってきました。この治療の適応となるのは、歯肉の増大、根面の被覆、顎堤の増大、粘膜欠損の修正、小帯の付着異常、歯冠の延長、萌出不十分な歯の露出、抜歯後の顎堤不良の防止、インプラント部粘膜欠損の修正などがあります。昨今では、疾患そのものを対象とするよりも、審美的または予防的な側面も含まれるようになってきました。審美面だけでなく清掃性を改善させることで、歯周病の再発を防ぐとともに、メンテナンスしやすい歯周環境をつくることは、長期的に口腔内を健康に保つことにつながります。

本セミナーでは審美的歯周形成外科とそのメンテナンスを積極的に実践されているお二人の先生をお迎えし、基本的なお話から実践までお話していただきます。本セミナーが会員のみなさまの明日からの臨床にお役に立てば幸いです。

○ 演者紹介



高田 智史 先生

(医療法人 オアシス 高田兄弟歯科・矯正歯科 副院長)

「審美的歯周形成外科を極める ～歯頸線を揃えるための A to Z～」

日常の臨床現場において審美領域における歯頸線が左右非対称の患者を目にすることは少なくない。その原因は様々であり、その対応方法も多岐にわたる。本日は限られた時間ではあるが症例を提示し、その治療方法の詳細をお伝えしたい。



南 里佳 先生

(医療法人 オアシス 高田兄弟歯科・矯正歯科 歯科衛生士)

「審美的歯周形成外科とそのメンテナンスを極める ～審美的歯周形成外科を成功に導く歯科衛生士の役割～」

歯周形成外科は歯周基本治療後に行われる治療であり、歯科衛生士の担う役割はとて重要で重要。また術後の周術期管理、SPT,メンテナンスと患者と接する時間が多いため患者の心を掴み良好な信頼関係の構築が必要です。本日は症例をお見せしながら歯周形成外科を成功に導くためのコツをお伝えしたいと考えています。

2023 年 3 月 12 日 (日) 13:00～15:30

Web 開催 ・ 参加無料

(※ 日本歯科審美学会会員に限る。事前申込必要)

お申込・詳細はホームページをご覧ください

<https://www.jdshinbi.net/academic/seminar/>



セミナーHP

QRコード